

# 賛美

「私は心を尽くして【主】に感謝します。あなたの奇しいわざを余すことなく語り告げます。私は、あなたを喜び、誇ります。いと高き方よ。あなたの御名をほめ歌います。」(詩篇9:1-2)

## 賛美の重要性

聖書はしばしば、神の民に主を賛美するように励ましている。

(1) 旧約聖書の記者たちは次の三つの基本的用語を用いてイスラエル人に神を賛美するように勧めている。「バーラク」(「祝福する」と訳することができる)、「ハールル」(「主を賛美する」という「ハレルヤ」はここから来ている)、「ヤーダー」(「感謝をする」と訳されるときもある)。

(2) 聖書に最初に記録された歌はイスラエル人が紅海を渡ったすぐあとに歌ったものである。それはエジプトの軍隊から奇蹟的に救われたことに対して神へささげた感謝と賛美の歌だった(出15: →15:2)。後にモーセはイスラエル人に、約束の地を与えてくださる神の慈愛を覚えて神を賛美するように命じた(申8:10)。デボラの歌は特に敵に勝利したことに対して主を賛美するように人々に呼びかけている(士5:9)。ダビデの神への賛美は生涯の物語にも(Ⅱサム22:4, 47, 50, Ⅰ歴16:4, 9, 25, 35-36, 29:20)。ダビデが作った詩篇の中にも(詩9:1-2, 18:3, 22:23, 52:9, 108:1, 3, 145:)記録されている。詩篇のほかの作者も神を賛美し神を尊ぶような生き方をするように神の民に訴えている(詩33:1-2, 47:6-7, 75:9, 96:1-4, 100:, 150:)。さらに旧約聖書の預言者たちも神を賛美するように神の民に指示している(イザ42:10, 12, エレ20:13, ⇒イザ12:1, 25:1, エレ33:9, ヨエ2:26, ヲバ3:3)。

(3) 神を賛美するという呼びかけは新約聖書全体に鳴り響き繰返されている。主イエスは天におられる父を賛美された(マタ11:25, ルカ10:21)。パウロはあらゆる国民が神を賛美することを期待し(ロマ15:9-11, エペ1:3, 6, 12)、ヤコブも神を賛美するようと言っている(ヤコ3:9, 5:13)。そして黙示録は、数えきれないほど多くの聖徒と天使がいつまでも神を賛美し続けている姿を描いている(黙4:9-11, 5:8-14, 7:9-12, 11:16-18)。

(4) 神を賛美することは天使たちの主な働きの一つである(詩103:20, 148:2)。また子どもであれ(マタ21:16, ⇒詩8:2)、若者であれ、おとなであれ(詩30:4, 135:1-2, 19-21)、神の民の特権でもある。神はあらゆる民族に神を賛美するように招いておられる(詩67:3-5, 117:1, 148:11-13, イザ42:10-12, ロマ15:11)。息のあるものはみな大声で神を賛美するようと言われている(詩150:6)。神は自然界でご自分が造られたもの全部、太陽や月や星(詩148:3-4, ⇒19:1-2)、雷やひょうや雪や風(詩148:8)、山や丘や川や海(詩98:7-8, 148:9, イザ44:23)、あらゆる種類の木(詩148:9, イザ55:12)、あらゆる生きもの(詩69:34, 148:10)などに神を賛美するように命じられた。神が造られたものはみな神の栄光を示し、神は賛美を受けるにふさわしい方であることを示している。

## 賛美の方法

神を賛美するためにはいろいろな方法がある。

- (1) 賛美は公の礼拝の重要な要素である(詩100:4, →「礼拝」の項 p.789)。
- (2) 教会やそのほかの場所での礼拝の場合、詩と賛美と霊の歌を歌うことは、神への賛美を表す一つの方法である(詩96:1-4, 147:1, エペ5:19-20, コロ3:16-17)。賛美は知性でも(人間のことばで)、霊によってでも(霊の祈りのことばである異言で Ⅰコリ14:14-16, →14:15注)表すことができる。
- (3) 音楽による賛美の表現には種々の楽器を使うことができる。たとえば角笛やラッパ(Ⅰ歴15:28, 詩150:3)、笛などの管楽器(Ⅰサム10:5, 詩150:4)、十弦の琴や立琴などの弦楽器(Ⅰ歴13:8, 詩149:3,

150:3)、タンバリンとシンバルなどの打楽器(出15:20, 詩150:4-5)などである。

(4) 神のすばらしいみわざをほかの人々に話すことも神への賛美の方法である。たとえば神の赦しを体験したダビデは、主がしてくださったことを人々に熱心に伝えた(詩51:12-13, 15)。聖書のほかの記者たちは神の民の会衆の中で(詩22:22-25, 111:1, ヘブ2:12)、諸国民の中で(詩18:49, 96:3-4, イザ42:10-12)、神の栄光を伝え賛美するように勧めている。ペテロは「あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを・・・宣べ伝える」(1ペテ2:9)ように神に選ばれた民に求めている。言い換えれば、ほかの国や文化の人々にキリストのメッセージを伝える宣教の働きは神を賛美する一つの方法である。

(5) 神の栄光と誉れのために生きる生き方そのものが、主を賛美する一つのかたちである。主イエスはもし私たちが「光」を輝かすなら、人々は私たちの良い行いを見て神をあがめ賛美をささげるだろうと言われた(マタ5:16, ⇒ヨハ15:8)。パウロは「義の実」(神の愛を示し神が言われたことを正しいとする品性と行動)に満ちた生活は神を賛美することであると言っている(ピリ1:11)。

賛美する理由

人々はなぜ主を賛美するのだろうか。

(1) 神の臨在を感じ、神のすばらしさをたたえるために神を賛美する。天と地を創造された方の力、栄光、不思議さ、威光を歌う(詩96:4-6, 145:3, 148:13)。この方は聖い方であがめられるにふさわしい方だから賛美する(詩99:3, イザ6:3)。

(2) 神の愛や力強い働きを自分たちの中に体験したので神を賛美する。神は赦しと救いと個人的交わりを与えてくださった(詩96:1-3, 106:1-2, 148:14, 150:2, ルカ1:68-75, 2:14, 20)。また神の変ることのないあわれみと恵みと愛に感謝を表したいので賛美する(詩57:9-10, 89:1-2, 117:1, 145:8-10, エペ1:6, ⇒「神の属性」の項 p.1016)。

(3) 神が人々を解放したり、敵から救い出したり、病気を癒したりされた特別なことを覚えて神を賛美する(詩9:1-5, 40:1-3, 59:16, 124:7, エレ20:13, ルカ13:13, 使3:7-9)。

(4) 神が肉体的にも霊的にも日々の配慮をしてくださり、必要を絶えず備えてくださるので神を賛美する。

これ以外にもさらに多くの理由に動かされた人は歌とあかしをもって神を賛美し、あかしをし、何にも勝ってあがめられるべき方に奉仕をするのである(詩68:19, 103:7, 147:7, イザ63:7 ⇒「神の摂理」の項 p.110)。

9:8 彼によって世界をさばき 神はご自分に頼る

9:8 彼によって世界をさばき 神はご自分に頼る

9:8 彼によって世界をさばき 神はご自分に頼る

9:8 彼によって世界をさばき 神はご自分に頼る

9:8 彼によって世界をさばき 神はご自分に頼る

9:8 彼によって世界をさばき 神はご自分に頼る

9:8 彼によって世界をさばき 神はご自分に頼る

9:8 彼によって世界をさばき 神はご自分に頼る